

完成度の高い論文なので、外在的な質問に偏りがちになってしまいますが、以下の点についてコメントしたいと思います。

#### 1、主張内容自体について

・なぜ末日聖徒イエス・キリスト教会を選ぶのか。その他のキリスト教諸派との差異はどのようなものか。その教義が特に浄土系仏教と相性がよいのか。それとも浄土系が優勢な地域では他のキリスト教諸派も勢力を伸ばしやすいのか。

・浄土系の出身者が多いというのは山形でもそうなのか。だとすると山形と富山での入信動機や定着率の違いは（宗派間のそれではなく）浄土系内部での違いということになる。それはどのような違いか。

#### 2、方法論について

・ライフヒストリーあるいはライフストーリーは、宗教地理学における補完的なツールにすぎないのか。むしろその語りの分布や差異自体が文化地理的には興味深い研究対象のようにも思われるが。

・ライフヒストリー/ライフストーリーを方法として用いるときに、その研究対象は「内面」なのか「語りの形式」なのか。語りを通して内面の真実に至り得るという発想自体が「インタビュー社会」特有の構図に捕らわれてはいないか。むしろ語りそれ自体を対象としてもよいのではないか。

・「精霊の導き」とは経験なのか語りなのか。語りの形式として捉え、その地理的差異を研究対象とすることも可能ではないか。